

はじめに

1. 英語は音楽や体育科目と同様スキル科目

本書の目的は、「スピーキングの導入」ではありません。「実際にスピーキングをできるようにしていく」ことです。音楽・体育のクラスの目的は、歌や楽器、スポーツのスキルを上げていくことですが、英語もこれらの科目と同じ扱いをします。それには相応のやり方、そのやり方のできる本書のような教材が必要なのです。

2. 学校・塾の教材や英検学習の教材との併用が可能

本書は、中学1年から高校1年まで（高校2年以降の文法項目は、スピーキングではほとんど縁のないもの）の学年毎にカバーされる文法項目、語彙の順序をだいたい踏襲しているので、学校や塾で使われている教科書や英検学習の参考書との併用ができます。

3. 「使える英語のための文法」を扱う

本書での文法は、スキル習得のための「習得文法」で、従来の英語で扱われる「記述文法」とは幾分異なります。句型文法のみならず、発音、自然なコミュニケーション上のルールも重要な「文法」です。英語が文型的に正しくても、不自然な英語の使い方では実用英語にはなりにくいのです。本書では、《カルチャーノート・その他》のコラムなどに、英語の自然なコミュニケーションのしかたもカバーしてあります。

4. 理解できない文法項目は習得できない

英語と日本語は非常に異なった言語同士です。それに応じて文法も微妙で複雑なポイントが多くなり、本書のような相応の詳しい説明が必要です。それを理解し、徐々に使える文法項目の積み上げを行います。そして、弱くなった項目の復習、つまりメンテナンスも必要です。

文法の説明が詳しくなく、ポイントを理解しながらのスピーキングの練習ができない場合、忘れやすく応用の効きにくい、英語表現の丸暗記の学習パターンになりやすくなります。

5. スピーキングは「聞き」、「読み・書き」のインフラ

今、英検、TOEIC や TOEFL など全ての英語の検定試験は CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）を使ってレベル表記をしています。CEFR の本の中心の記述はスピーキングです。スピーキングこそが言語の中心で、他のスキルの「聞き」「読み」「書き」のインフラになるからです。米商務省の外国語教育機関 (FSI) もイェール大学発の英語のテスト (E-CAP) も同じ考え方に基いていて、このことはしかるべき言語教育機関では常識中の常識です。文法を読みに関連付けて英語を学ぶのは昔の言語教育観をベースとしています。本来なら本書のように文法をスピーキングとペアで扱うべきなのです。

しかるべき文型、自然表現、発音でスピーキングができれば、相応にリスニングができるようになっていきます。また、スピーキングで表現できれば、ライティングでも表現できますし、読みも語順通りに直読直解ができるので、日本語でいちいち考えながらの読解・解読をする必要もなくなります。すでにオーラル英語をより実効的に取り入れている東アジアの国々の読みのレベルは日本のそれよりはるかに上なのです。

6. 英語のスピーキングからスピーチへとつながる

英語でスピーキングができなくては、英語でのスピーチはできるはずがありません。本書で英語の文法パターン、英語表現をスピーキングで使えるようになるまでしっかりインプットし、それを土台として無料でダウンロードできる「スピーチトピック」(次頁囲み 4. を参照) を使ってスピーチの練習をすることができます。英語の検定試験はスピーキングのセクションに 15 ~ 120 秒のスピーチを課していますが、この練習によってそれらに効率的に対処できます。

それができてくれば、留学などでのクラスディスカッションが英語でできるようになります。就職してもグローバル人材として、英語でのミーティングなどでのディスカッション、プレゼンテーションスキル習得へとスムーズにつなげていくことができます。

7. 本書での習得プラクティスの手順

1. グラマーのポイントを理解します。
2. 日本語だけを見て口頭にて英語で瞬間的に言ってみます。実際の英会話は、状況に合わせて自分の脳と舌を使って英語をクリエイトする行為です。この練習で、日本語部分で与えられた“状況”をベースに、自分の脳と舌を使っての英語のクリエイトに慣れます。
3. 言えない英語だけスムーズに言えるようになるまで練習します。
4. 仕上げに、録音されているネイティブの英語を聞きリピートします。その場合、本書は閉じておきます。自然なスピード、発音になるまで練習します。

《オンラインで無料ダウンロードできるもの》

<http://www.ivyleague-english.com>

1. グラマーの理解度チェッククイズ
2. 本書のスピーキングの日本語—英語の練習シート
3. 本書のスピーキングの日本語だけの練習シート
4. ショートスピーチ、ミドルスピーチのトピック（スピーチの行い方のインストラクションも含む）

目次

はじめに 3

Lesson 0-1 英語の発音 14

1. 英語の母音 14
2. 英語の子音 17

Lesson 0-2 あいさつ表現など 23

中学一年レベル

Lesson 1-1

1. 文：主語 (Subject:S) と述語 30
2. 名詞関連 30
 - 1) 名詞 2) 代名詞
3. 形容詞関連 31
 - 1) 形容詞 2) 冠詞
4. 副詞 31
5. 動詞 32
 - 1) 補語をとる動詞 vs 目的語をとる動詞
 - 2) 補語について
 - 3) 人称代名詞と be 動詞の語形変化

Lesson 1-2

1. 指示代名詞
(this, that, these, those) 36
2. 人称代名詞の形容詞的用法
(my, our, your, his, her, their) + 名詞 37
3. 形容詞 + 名詞 40
4. 指示代名詞の形容詞的用法
(this, that, these, those) + 名詞 41

Lesson 1-3

1. 一般動詞 42
2. 主語 + 動詞 (+ 副詞の修飾語) の
センテンス 44

3. 主語 + 動詞 + 目的語 (+ 副詞の修飾語)
のセンテンス 44
4. 命令形 (be 動詞、一般動詞) 45

Lesson 1-4

1. 可算名詞 vs 不可算名詞 47
2. 一般的 vs 具体的 (名詞) 48
3. 名詞 その1：普通名詞 49
4. 名詞 その2：物質名詞 50
5. 名詞を限定する語 50

Lesson 1-5

1. Wh- 疑問文 (疑問詞 その1：疑問代名詞) 54
 - 1) who 2) what 3) which
2. 人称代名詞の目的格 57
3. 名詞 その3：固有名詞 58
4. 名詞 その4：抽象名詞 59
5. 場所に the がつく / つかないケース 60
 - 1) 建物、場所がその本来の目的・機能を表す
 - 2) the + 身近な場所
 - 3) the + 固有の建物
6. 前置詞 その1：前置詞の基本 61

Lesson 1-6

1. Wh- 疑問文 (疑問詞 その2：疑問形容詞) 63
 - 1) what 2) which 3) whose
2. 前置詞 その2 64
 - 1) of 2) for 3) on 4) in
3. 接続詞 and, or 68
 - 1) and 2) or

Lesson 1-7

1. Wh- 疑問文 (疑問詞 その3：疑問副詞) 69
 - 1) where 2) when 3) why 4) how
2. 前置詞 その3 71
 - 1) to 2) from 3) at 4) by
3. 名詞 その5：集合名詞 73

 中学二年レベル

Lesson 1-8

- 前置詞 その4 76
 - with 2) about 3) after 4) over
 - at, on, in の比較
- 所有代名詞 79
- 感嘆詞 80
- 問題の出やすい名詞の強化 81

Lesson 1-9

- 状態動詞と動作動詞 83
 - 状態動詞 2) 動作動詞
- 進行形 85
 - 進行的 2) 一時的
 - まさに起ころうとしていること
 - "命令"を表す
 - 進行形と単純現在形との比較
- 形容詞に関する注意 89
 - the +形容詞=複数扱いの集合名詞
 - little と small

Lesson 1-10

- be 動詞の過去形 90
- it の用法 92
 - 前出の語、句、節などを受けるケース
 - 天候や時間などの it
 - 状況の it
- 名詞の同格 92
- 副詞の注意点 93
 - 副詞(句)が複数重なるケース
 - too の注意点

Lesson 1-11

- 一般動詞の過去形：過去形 その2 96
- 法助動詞 その1：can, could 98
 - can 2) could
- 名詞の所有格と二重所有格 102
 - 名詞の所有格 2) 二重所有格

Lesson 2-1

- 法助動詞 その2：may, might 106
 - may 2) might
- 法助動詞 その3：will, would 108
 - will 2) would
- 未来表現 111
 - 現在形の動詞を使う
 - be going to を使う
 - 現在進行形を使う
 - will などの助動詞を使う
 - be going to と will の比較
- 再帰代名詞 114

Lesson 2-2

- その他の疑問文 117
 - 否定疑問文 2) 付加疑問文
 - 選択疑問文
- 法助動詞 その4：shall, should, must, have to 118
 - shall 2) should 3) must
 - must と have to
- 第四文型 (S+V+O+O) 124
 - give 型の動詞
 - buy 型の動詞

Lesson 2-3

- 準動詞 その1：不定詞 128
 - 不定詞が名詞
 - 不定詞が形容詞
 - 不定詞が副詞
- 法助動詞 その4：can と be able to 129
- 法助動詞 その5：法助動詞(句) 同士の強さの相対関係 131
 - 推論—肯定文
 - 推論—否定文
 - 未来の予想—肯定文
 - 未来の予想—否定文
- 第二文型で使われる be 動詞以外の動詞 133

5. 2種類の There ~ のセンテンス 134

- 1) There is の存在文
- 2) there が前置で文頭にくるケース

6. 副詞の文修飾 135

7. 第五文型 (S+V+O+C) 136

- 1) 補語が名詞のケース
- 2) 補語が形容詞のケース
- 3) 補語が副詞のケース

Lesson 2-4

1. 準動詞 その2：動名詞 140

2. 動名詞か不定詞か 142

3. 等位接続詞 144

- 1) and 2) or 3) but

Lesson 2-5

1. 受動態 148

- 1) 第三文型 (S+V+O) からの受身形
- 2) 第四文型 (S+V+O+O) からの受身形
- 3) 第五文型 (S+V+O+C) からの受身形
- 4) 中間の態 (能動態でも受動態でもない)

2. 準動詞その3：分詞 153

- 1) 分詞の限定用法
- 2) 分詞の叙述用法
- 3) 分詞のその他の注意

Lesson 2-6

1. 従位接続詞 その1：名詞節を導く接続詞 159

- 1) that
- 2) 間接疑問文に使われる接続詞

2. 名詞節の形式主語の it 163

3. 比較 163

- 1) 原級 2) 比較級 3) 最上級

Lesson 2-7

1. 従位接続詞 その2：副詞節を導く接続詞 169

- 1) 時の副詞節を導く接続詞
- 2) 理由・原因の副詞節を導く接続詞

3) 条件の副詞節を導く接続詞

4) 譲歩

5) 目的

2. 前置詞がオプショナルなケース、要らないケース 175

- 1) 前置詞がオプショナルなケース
- 2) 前置詞が必ず省略されるケース

中学三年レベル

Lesson 3-1

1. 現在完了形 180

- 1) 「完了」の完了形
- 2) 「継続」の完了形
- 3) 「経験」の完了形
- 4) 完了形の注意点

2. 従位接続詞 その3：関係代名詞の基本 184

- 1) 関係代名詞について
- 2) 関係詞の限定用法と非限定用法
- 3) who 4) which 5) that

Lesson 3-2

1. 異なった時制同士の比較と時制の注意点 192

- 1) 単純現在と現在進行形
- 2) 単純過去と現在完了形
- 3) 単純過去と過去進行形
- 4) 単純現在の注意点
- 5) 現在進行形の注意点

2. 疑問文の注意点 196

- 1) 「はい」と「いいえ」が英語では No と Yes になるケース
- 2) 平叙文でも疑問形になるケース
- 3) 否定疑問文
- 4) 付加疑問文のカジュアル表現
- 5) 応答疑問文

3. 疑問詞+不定詞 198

- 1) 主語 2) 目的語 3) 補語

Lesson 3-3

1. 代名詞の注意点 201
 - 1) we, you, they が“一般の人々”を表す
 - 2) this, that, these, those の注意点
 - 3) so, same, one の注意点
 - 4) other, another の注意点
 - 5) some/any/every/no + body/one/thing

Lesson 3-4

1. many と much 208
2. few と little 209
 - 1) 否定的意味で「ほとんどない」「少ししかない」
 - 2) 肯定的意味で「少しはある」
 - 3) not a few/little と quit a few, quite a little/bit
3. some と any 210
4. very と much 212
5. [関係代名詞 + be 動詞] の省略 213
6. [for ~ to 不定詞] と [It is + 形容詞 + for/of + 人 + to 不定詞] 213
 - 1) [for ~ to 不定詞]
 - 2) [It is + 形容詞 + for/of + 人 + to 不定詞]

Lesson 3-5

1. その他の前置詞 216
 - 1) above 2) against 3) around
 - 4) as 5) behind 6) between
 - 7) beyond 8) down 9) into
 - 10) like, unlike 11) out
 - 12) through 13) under
2. 他動詞とは捉え難い注意すべき語 223
3. 名詞節が前の名詞と同格のケース 223
4. “習慣”の used to と would 224

Lesson 3-6

1. to 不定詞と原形不定詞の両方が可能な場合 227
 - 1) help と know
 - 2) come と go

2. make, have, get, let と感覚動詞を使った第五文型 (S+V+O+C) のパターン 229
 - 1) make 2) have 3) get 4) let
 - 5) 感覚動詞
3. 形容詞 + 不定詞 231
4. in と on など 232
 - 1) 乗り物の乗降
 - 2) in と on が「〜で読む」ケース
 - 3) die of と die from
 - 4) made of と made from

高校一年レベル**Lesson 4-0**

- 《中学英語の総復習》
1. 文：主語と述語 238
 - (1) 名詞
 - (2) 代名詞
 - (3) 形容詞
 - (4) 限定詞
 - (5) 副詞
 - (6) 動詞
 - 1) 補語 2) 目的語
 2. その他の文の要素 241
 - (1) 助動詞
 - 1) 法助動詞 (句) 2) 時制 3) 完了形
 - 4) 進行形 5) 受動態 6) 命令形
 - (2) 前置詞
 - (3) 準動詞
 - 1) 分詞 2) 不定詞 3) 動名詞
 - (4) 比較
 - (5) 疑問詞
 - 1) 疑問代名詞 2) 疑問形容詞
 - 3) 疑問副詞
 - (6) 接続詞
 - 1) 等位接続詞
 - 2) 従位接続詞

Lesson 4-1

1. 従位接続詞 その3：関係副詞 250
 - 1) 関係副詞について
 - 2) where 3) when 4) why 5) how
 - 6) 関係副詞が関係代名詞か
2. 従位接続詞 その3：関係形容詞 253
3. 完了形と進行形のまとめ 254
 - 1) 動詞の四つのタイプ
 - 2) 未来完了形
 - 3) 過去完了形
 - 4) 未来進行形

Lesson 4-2

1. 直接法と仮定法のある条件文 263
 - 1) 直接法のある条件文
 - 2) 仮定法のある条件文
2. 句動詞 267
 - 1) 自動詞としての句動詞
 - 2) 他動詞としての句動詞
 - 3) 自動詞としての句動詞+前置詞
3. 倍数表現 269
4. その他の法助動詞 271
 - 1) dare 2) need 3) ought to

Lesson 4-3

1. if 以外の条件文 274
 - 1) unless 2) suppose, supposing
 - 3) in case 4) even if
 - 5) as if/though
2. 副詞節を分詞を使って副詞句へ簡略化 276
 - 1) 現在分詞を使うケース
 - 2) 過去分詞を使うケース
3. 分詞のまとめと分詞構文（分詞の副詞的用法） 279
 - 1) 形容詞として 2) 名詞として
 - 3) 動詞として
 - 4) 副詞として（分詞構文）

Lesson 4-4

1. 複合関係詞 284
 - 1) what
 - 2) whoever, whichever, whatever
 - 3) 複合関係形容詞としての whatever, whichever
 - 4) 複合関係副詞としての wherever, whenever
 - 5) 譲歩の wh+ever
2. 不定詞の慣用表現 286
 - 1) in order to と so as to
 - 2) ~ enough to
 - 3) too ~ to
 - 4) 原形不定詞の慣用表現
3. 動名詞の慣用表現 288
4. 冠詞の注意点のまとめ 289
 - 1) 不定冠詞 a(n)
 - 2) 冠詞 the

Lesson 4-5

1. 命令形の注意点 295
 - 1) 命令形+ and/or
 - 2) let の注意点
 - 3) let を使った慣用表現
 - 4) 命令文のいろいろな社会的機能
2. 否定表現の注意点 297
 - 1) 気をつけるべき語(句)
 - 2) 表現をソフトにするために否定文を使うケース
 - 3) 否定の慣用表現
 - 4) 否定文を使つての同意表現

Lesson 4-6

1. 不定詞のその他の注意点 303
 - 1) be + to 不定詞
 - 2) seem + to 不定詞
 - 3) 代不定詞
 - 4) *目的* 以外の不定詞
 - 5) 副詞の独立語句として
2. 中間の態（能動態でも受動態でもない）その2 306

3. 感情の形容詞 (-ing, -ed タイプ)
その2 307
4. 前置詞的に用いられる句 309
 - 1) owing to, because of, due to
 - 2) in spite of, despite
 - 3) instead of
 - 4) except, except for, besides
 - 5) according to
 - 6) thanks to

Lesson 4-7

1. 全否定、部分否定、準否定 312
 - 1) 全否定と部分否定の違い
 - 2) 準否定 (弱い否定)
2. 倒置 313
 - 1) 否定語、準否定語を文頭に置くケース
 - 2) if を省略するケース
3. 受動態の注意点 314
 - 1) 受動態の現在進行形
 - 2) 英作文で問題が出る受動態表現
4. 形容詞の注意点 315
 - 1) 過去分詞が形容詞になるその他のケース
 - 2) 形容詞 2語での合成語

Lesson 4-8

1. 不定詞、動名詞の両方とれる形容詞 320
2. 副詞の注意点 その2 320
 - 1) 副詞+形容詞
 - 2) 副詞+副詞で、前の副詞が後ろの副詞を強めるケース
 - 3) 副詞の慣用表現
3. 疑問詞を使った慣用表現・有用表現 323

Lesson 4-9

1. 部分詞と of 句の注意点 326
2. 主要動詞を使ったイディオム 327
 - 1) have 2) get 3) make 4) take
3. 無生物主語をとる動詞 330
4. should の注意点 330

- 1) 感情を表す形容詞・名詞のある複文
- 2) 提案・勧誘・要求・必要などを表す名詞・形容詞・動詞のある複文

カルチャーノート・その他

- 《1》年齢について 116
- 《2》「頑張って」の英語表現 126
- 《3》I'm sorry. の多用に注意 139
- 《4》Yes/No はハッキリと 147
- 《5》ボディーランゲージ 158
- 《6》英語でリクエストする場合の注意 168
- 《7》天気 178
- 《8》電話での会話 190
- 《9》ドアでのエチケット 200
- 《10》you と「あなた」 207
- 《11》1つの状態・動作に2つのものが必要な場合 215
- 《12》「料金」「クラッシュ」 226
- 《13》「色」に関して 235
- 《14》感情を表す感嘆表現 261
- 《15》あいさつ表現の補足 273
- 《16》紛らわしい動詞の変化形 283
- 《17》個人と集団 294
- 《18》文字通りの解釈が誤解を生むケース 302
- 《19》“日本人のスマイル”の注意点 311
- 《20》体の部位の日英のズレ 319
- 《21》“あいまいさ”の扱い 325
- 《22》英語の婉曲表現の作り方 333

クラスルームインストラクション 334

索引 335

Lesson 3-2

1. 異なった時制同士の比較と時制の注意点

それぞれの時制は、他の時制との比較でよりわかりやすくなります。

1) 単純現在と現在進行形

単純現在は“習慣的”で、現在進行形は“特定の”です。

「どうして彼女は早く帰るの？」	Why <u>does she leave</u> early? (習慣)
「どうして彼女は（今）早く帰るところなの？」	Why <u>is she leaving</u> early?(今の状況)

*現在進行形には“今まさに起ころうとしていること”も表せます (1-9-2-3), 2-1-3-3) 参照)。

「元日は何しているの？」	What <u>do you do</u> on New Year's Day? (元日一般に関する問いー習慣)
「元日はどうする予定？」	What <u>are you doing</u> on New Year's Day? (特定の元日についての問い)

*この現在進行形は“近未来の個人の予定”です (2-1-3-3) 参照)。

2) 単純過去と現在完了形

現在完了形は、口語的な簡略化で単純過去を使って表すケースが多いことはすでに触れました (3-1-1-4)-a) 参照)。

「トムは自分のビジネスに関して興味を失った」	Tom <u>(has) lost</u> interest in his business.
「サリーは自分の経験について話し始めた」	Sally <u>(has) started</u> telling her experience.

* **experience** は抽象名詞で基本数えませんが、「いろいろな経験」の意味では **many experiences** が可能です。抽象名詞でも内容が具体的になればなるほど可

算扱いになります（他の例：「多くの親切」 many kindnesses、「幸せな結婚」 a happy marriage）。

- * 他の抽象名詞に複数形を使っての表現は「研究」 studies、「おめでとう」 Congratulations!、「感情」 feelings、「上機嫌」 good spirits、「計画」 plans、「ご多幸を祈る」 best wishes など、非常に多く使われます。

「彼女最近あそこには行っているの？」	<u>Has she been</u> there lately? (Was she there lately? も可)
「彼ほど頭のいい人に出会ったことがない」	I <u>(have) never met</u> any man as smart as him.
「彼女ほどきれいな女性を見たことありますか？」	Have you ever seen a woman as beautiful as her? (Did you ever see a woman as beautiful as her? も可)

両者の違いのある場合があります。

「彼はアメリカで 10 年働いていました」	He <u>worked</u> in America for ten years. (終わったこと)
「彼はアメリカで 10 年働いています」	He <u>has worked</u> in America for ten years. (終わっていないこと)

以下のペアのセンテンスも微妙に異なります。

「今朝、スミス先生は見なかったよ」	I <u>haven't seen</u> Dr. Smith this morning. (昼ごろの発言)
「今朝、スミス先生は見なかったよ」	I <u>didn't see</u> Dr. Smith this morning. (昼過ぎの発言)
「その公園に行ったことある？」	<u>Have you gone</u> to the park? (今までの経験を聞いている)
「その公園に行ったの？」	<u>Did you go</u> to the park? (特定の機会に実際に行ったか聞いている)